

鷺山遺跡群発掘調査現地公開資料

平成16年1月17日 於 下土居北門遺跡A1区
岐阜市教育委員会 社会教育室
(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所

はじめに

区画整理事業に先立つ鷺山遺跡群での発掘調査も今年度で5年目となります。調査面積は計約3,500㎡の予定で、現在も3ヶ所で調査を行っています。本日は、古墳時代と戦国時代について発見した成果を報告します。

古墳時代の成果

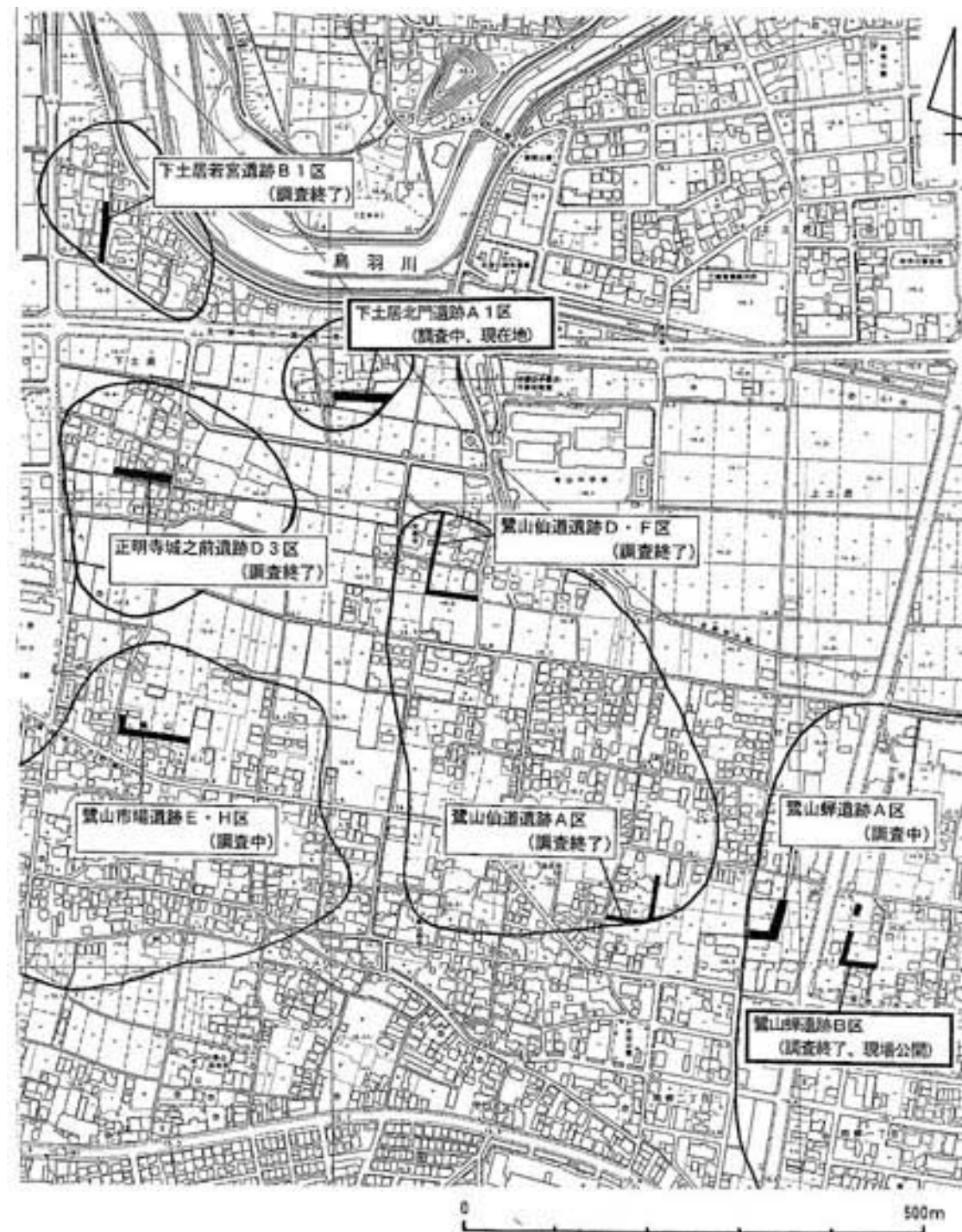
- ・水辺の祭祀跡（正明寺城之前遺跡D3区）

戦国時代の成果

- ・区画溝、石組井戸など福光城下町の町割り（下土居北門遺跡A1区）
- ・「蟬土手」推定地の堀跡（鷺山蟬遺跡B3区）

おわりに

今回見つかった戦国時代の成果は、例年見つかったものと同様に福光城下町を構成する痕跡であるが、中でも文献にある「蟬土手」城館跡の堀と考えられる溝が見つかったことは大きい。鷺山蟬遺跡では今後も調査が続く予定であり、さらに大きな成果が得られるはずである。



平成15年度発掘調査区位置図

下土居北門遺跡 A 1 区

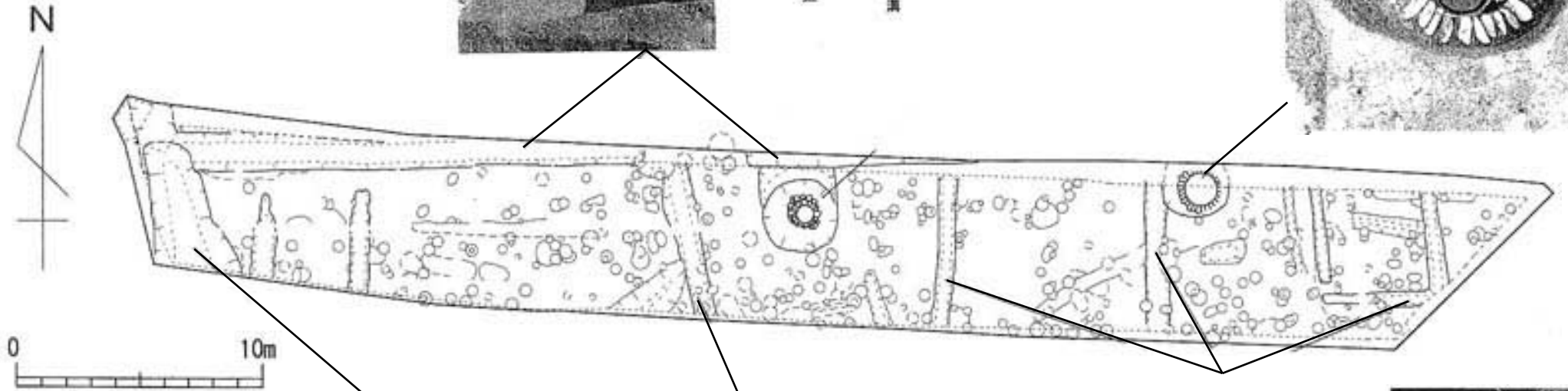
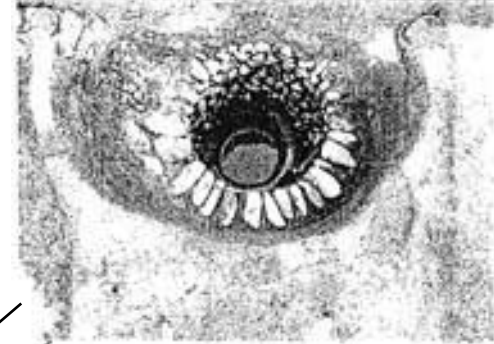
区画溝 (戦国時代)

幅約1.5m、確認した深さは約0.4m。軸が東西方向に対しやや南に振るといふ鷺山地区では珍しい溝です。埋土中からは多くの土師器皿や瀬戸・美濃産陶器が出土しました。この溝は途中で途切れており、この部分については溝が一連のもので、途切れる部分は溝で区画された北の区画と南の区画をつなぐ橋、溝が別のものそれぞれ北に曲がり、途切れる部分は西と東の区画の間にある道、という2通りの解釈ができます。いずれにしても、区画溝に伴う橋もしくは道を確認したのは鷺山地区では初めての事です。



石組井戸 (戦国時代)

調査区の中央部に1基(井戸1)と東部に1基(井戸2)の計2基の石組井戸を確認しました。2基とも石組の下には底のない桶が据えられる構造を持っています。井戸1は内径約0.7m、残存する石組は約0.8m、桶の高さ0.6mを測る鷺山でもよく見られる大きさの井戸です。井戸2は内径約1.3m、残存する石組は約1.5m、桶の高さ0.8mを測る大きなもので、長さ約40cmの楕円形の川原石を選んで使用しているようであり、丁寧に造られている様子が分かります。



ゴミ捨て穴 (戦国時代)

長軸5m以上、幅約2.5m、深さ0.6mの規模を持つもので、埋土中からは土師器皿や木製品など多くの遺物が出土しました。底部が不整形であることから、土取りもしくはゴミ捨てのために掘られた可能性が考えられます。



区画溝 (戦国時代)

ほぼ真北に軸をとる溝で、本調査区の東西方向の溝、また鷺山で多く見つかる真北よりやや東に振る軸を持つ溝とも異なります。この時代、鷺山地区には少なくとも4つ以上の異なる方向を持つ区画溝が確認されており、鷺山遺跡群の東方にある城之内遺跡と比べても明らかに統一性が見られません。



溝 (奈良・平安時代)

長さ7m以上、幅約1m、深さ約0.2mを測る。埋土中からは土師器、須恵器などが多く出土した。軸は真北に対しやや西に振り、他の溝とは明らかに異なる。

鷺山^{せみ}蝉遺跡B3区

鷺山蝉遺跡B3区では、戦国時代（16世紀初め、およそ500年前）の堀（SD03）が見つかったことが大きな成果と言えます。その大きさは、確認できた部分で幅約7.2m 深さは当時の地面から約2.1mまで掘り下げられていました。

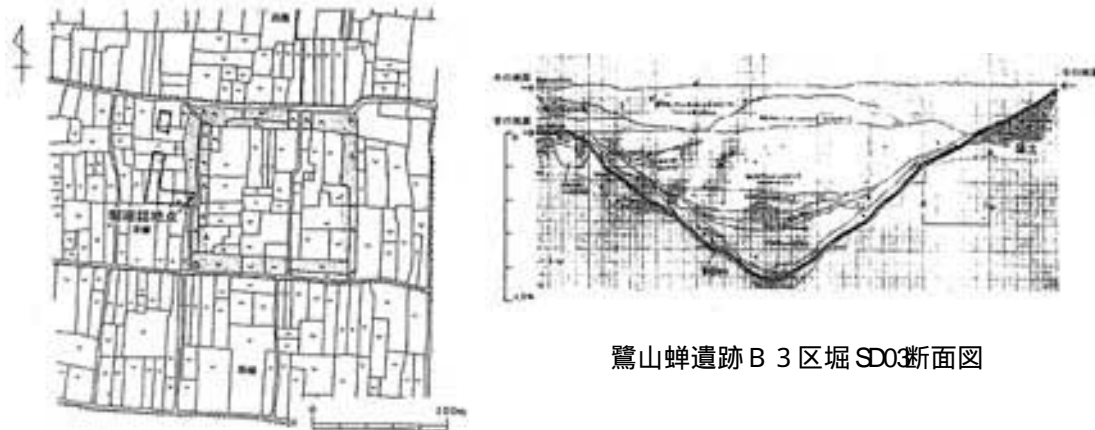
鷺山蝉遺跡の範囲内には、江戸時代の文献資料や、明治時代の地籍図などの復元から、一辺約120mで方形の「蟬土手城館跡」（蟬封疆城館跡）があったとされており、その周囲には堀や土塁がめぐることが想定されていました【下図左】。城館の廃絶後は、堀は一部池として残っていたものの、全て埋められてしまい、また土塁も明治時代以降に一部を除き削平されたことから、当時の様子は分からなくなっていました。

今回の調査で見つかった堀は、東側に盛土を行なった痕跡が残っていたことから、この堀が城館の西側を区画すること、その東側に土塁の存在することが明らかとなりました。また土塁のさらに東側には、建物などの生活空間が存在した可能性が考えられます。なお文献では、城館の西側に入り口があったとされていたが、今回の調査で確認することはできませんでした。

また、この堀の断面は 字形（薬研堀^{やげんぼり}）で、鷺山遺跡群や長良・福光地域でこれまで見つかった溝や堀の断面形とはやや異なります〔下図右〕。その理由は現時点では分かりませんが、今後も検討していきたいと思えます。

この堀の中からは、戦国時代の焼き物（土器）や木製品などが見つかりました。土器は、かわらけ（土師器皿）のほか、瀬戸・美濃産陶器の小壺がほぼ完全な形で見つかりました。また、木製品では、漆塗りのお椀（漆器椀）が多数（破片なども含むと20点）見つかりました。これらは500年近くもの長い間土の中に埋まっていたが、この堀の底が泥で、水分の多い状態であったことから、比較的残りの良い状態で見つかっています。

戦国時代ではこの堀以外にも、かわらけが多く出土する区画溝〔右写真上、区画溝SD04〕、柱穴（ピット）など多くの遺構を確認できました。また、戦国時代の遺構以外では、室町時代（14世紀、およそ700年前）の区画溝〔右写真中、区画溝SD01・SD02〕といった遺構が見つかりました。また、出土遺物のみに限られますが、弥生時代や古墳時代、古代（約2,000～1,000年前）といった、より古い時代の土器も見つかっています。



鷺山蝉遺跡 B 3 区堀 SD03断面図

地籍図に見る蟬土手城館跡

『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第2集を一部改変

